

近年の外部環境の変化は、日エグループにさまざまな機会とリスクをもたらすと認識しています。具体的には、地政学リスクの増大やサプライチェーン不安定化などの「政治・経済分野」、カーボンニュートラルや資源循環、生物多様性などの「環境・エネルギー分野」、ダイバーシティ&エクイティ&インクルージョン(DE&I)、多様な働き方、社員エンゲージメント、人権や企業倫理への要請などの「社会分野」などへの取り組みがサステナビリティ経営に欠かせないものとなっています。

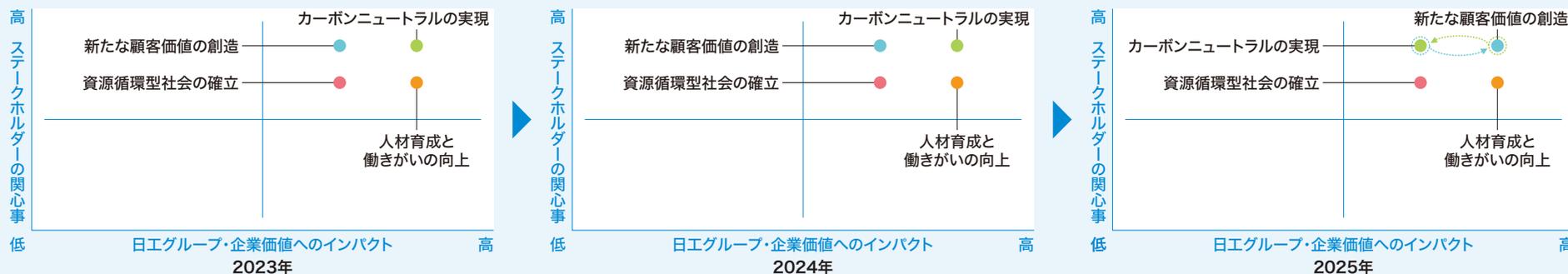
日エグループが目指す2030年ビジョンを達成するためには、こうした外部環境や業界環境の変化を的確に把握し、ここから抽出されるさまざまな課題(マテリアリティ)を、ステークホルダーやサステナビリティへのインパクトも勘案したうえで解決を図り、我々の企業価値を最大化することが求められます。

日エグループは(1)カーボンニュートラルの実現、(2)循環型社会の確立、(3)新たな顧客価値の創造、(4)人材育成と働きがいの向上、の4項目をマテリアリティに掲げています。ここで(1)と(2)は社会のサステナビリティ、(3)と(4)は日エのサステナビリティに関連しますが、これらを同期させるサステナビリティトランスフォーメーションが重要と考えています。なお、2025年度のマテリアリティマップでは、2025-2027中期経営計画において「収益力の向上」を重視していることを踏まえ、当社の強みであるメンテナンスサービス事業を中核に、コア事業の有機的な拡大を図る方針です。これにより、マテリアリティの優先順位として「新たな顧客価値の創造」と「カーボンニュートラルの実現」を入れ替えています。

## ◆ マテリアリティとサステナビリティの関係、KPIと貢献するSDGs

		マテリアリティ	貢献するSDGs	ありたい姿と関連性
社会のサステナビリティ		カーボンニュートラルの実現	 	日本の合材工場からのCO <sub>2</sub> 排出量(年間約130万トン)の約7割は日エ製プラントからと推測されています。日本全体のCO <sub>2</sub> 排出量(約10億トン)に占める割合は小さいですが、合材工場からのCO <sub>2</sub> 排出量削減は当社の使命と考え、CO <sub>2</sub> 排出量実質ゼロを目標としています。
		資源循環型社会の確立		日エグループの保有する4つのコア技術は、循環型社会の確立に必須の技術です。約99%リサイクルされているアスファルト舗装材料に続き、廃コンクリートの循環利用の拡大、石膏・都市鉱山など産業廃棄物再資源化プラントのさらなる展開を通じ、地球環境の保全に努めてまいります。
日エのサステナビリティ		新たな顧客価値の創造	  	日エグループは2030年ビジョンで、“運用・保全サービスによる顧客の経営パートナー”を目指しています。DXやAIなどを駆使したプラントの省人化・自動化を達成し、安全で安定したプラントの運用をお客様に提供します。
		人材育成と働きがいの向上	 	日エグループは、サステナビリティ経営の最重要項目は人的資本であると認識しています。日エが2030年ビジョンを達成するには、多様性や包括性を含む人材が必要であり、この育成やワーク・ライフ・バランス、ウェルビーイングを含む働きがいの向上が重要となります。

日エグループのマテリアリティマップ変化



KPI	2024年度実績	今後のアクションプラン	参照ページ
<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量(スコープ1&amp;2&amp;3) 2030年度:650,000トン(2013年度比:50%減) 2050年度:実質ゼロ</li> <li>脱・低炭素関連製品売上高 2030年度:32億円</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量:763,885トン(2013年度比:42%減) 脱・低炭素関連製品売上高:8億円(2024年度) 中温化学材製造装置の拡販</li> <li>水素燃料バーナの開発と一般産業領域への拡大 アンモニアからオンサイト変換した水素利用の実証試験成功</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ全体でのグリーン電力化推進</li> <li>脱炭素燃料燃焼技術の開発推進・提案強化</li> <li>燃料供給先との協働による脱炭素燃料利用の仕組み化</li> </ul>	▶P63
<ul style="list-style-type: none"> <li>石膏ボード再資源化設備の市場拡充</li> <li>コンクリートスラッジ再資源化設備の市場拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃石膏の再資源化プラントの納入</li> <li>コンクリートスラッジ再資源化プラントの納入</li> <li>自走式土質改良機の改良・実装</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資源リサイクルプラント実装推進(リピート案件の提案強化)</li> <li>廃コンクリートの再資源化(脱炭素原料化)への取り組み参画(CUCOなど)</li> </ul>	▶P67
<ul style="list-style-type: none"> <li>DXによる新たな価値創造</li> <li>アセットマネジメントによるプラント管理サービスの展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンクリート製造DXトータル管理プラットフォームの展開</li> <li>定額制サービスの展開</li> <li>画像AI選別機の開発・実装</li> <li>モバイルプラントメンテナンスマニュアルの展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日エグループは2030年ビジョンで、“運用・保全サービスによる顧客の経営パートナー”を目指しています。お客様の課題解決のためにDXやAIなどを駆使した製品・サービスの開発はもちろん、お客様の生産性向上やコストパフォーマンスへの貢献を目指したメンテナンスサービスの定額(サブスクリプション)契約を推進しています。</li> </ul>	▶P71
<p>2030年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>女性管理職比率:7%</li> <li>1名当たり研修時間と研修費用:20時間、10万円</li> <li>育児休業取得率:女性100%、男性50%</li> <li>離職率:入社後3年間7%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性管理職比率:1%</li> <li>1名当たり研修時間と研修費用:15.3時間、8.8万円</li> <li>育児休業取得率:女性100%、男性61.9%</li> <li>離職率:入社後3年間15.6%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社員の意見を収集し、より快適に働けるよう社員のエンゲージメント、働きやすさの向上を目指します。</li> <li>社員一人ひとりが積極的に自らが学びたい分野を選んで学習できるようにeラーニングを取り入れ、社員の知識の向上、リスキリングができる環境を整えます。</li> <li>今後も積極的に外国籍社員を採用していきます。</li> <li>社員の事情に合わせたフレキシブルな働き方ができるような制度構築を目指します。</li> </ul>	▶P72